

おそうしきのまえに

名前

さんのお葬式について

書かれた日

年 月 日

略歴

－人生を振り返ってみましょう－

名前 生年月日
は、 年 月 日

出生地 当時の姓
の 家にて

父の名称 母の名称
と の間に

兄弟姉妹の性別と人数 続柄
男 人、女 人の兄弟の中で として生まれました。

職業名
当時の家の職業は でした。

学歴
を卒業しました。

職歴
に勤めました。

団体役員など
を経験しました。

趣味
趣味は で、

特技
特技は でした。

結婚記念日 配偶者名
に と結婚し、

名前や人数
今は の子どもと

人数 他、ひ孫など
の孫や がいました。

丸をつける
性格は 温厚 誠実 情け深い 心優しい 円満 親切 世話好き

勤勉 仕事一途 努力家 家庭的 子煩悩 慎み深い 献身的

真面目 意思堅固 勝気 一本気 厳格 豪放 快活 責任感

正義感 寛容 ほがらか 清純 () でした。

丸をつける

誰からも 親しまれる 尊敬される 好かれる 慕われる 愛される

信頼される 期待される () 人柄でした。

人生の中で特別に思い出される出来事として、

ということがありました。

もしもの ときには

①. 死去

◇病院での死去

病院ではご遺体の清拭が行われます。

処置などで時間が掛かる場合もあり、葬儀社がお迎えに上がる場所と時刻について、ご家族より病院にご確認頂きます。

その後に弊社にお電話下さい。

弊社よりお伺いすることは、以下の通りです。

- ・亡くなった方のお名前
- ・お迎えに伺う場所・時刻
- ・ご安置する場所
- ・非常時の連絡先（携帯電話の番号）

弊社は寝台車でお迎えに上がります。

病院より死亡診断書を受け取り、ご安置する場所へ移動します。

◇病院以外での死去

掛かり付けの医師に連絡します。医師に掛かっていなかった場合や突然お亡くなりになった場合は、警察に連絡をします。

その後弊社にお電話下さい。

弊社よりお伺いすることは、以下の通りです。

- ・亡くなった方のお名前
- ・お伺いする場所と時刻
- ・ご安置する場所（移動が必要な場合）
- ・非常時の連絡先
(携帯電話の番号
ご自宅でお亡くなりの場合ご自宅の番号)

死体検案書を受け取り、ご遺体を引き取ります。

※死因が特定されない場合は病院等へ搬送されます。

24時間365日対応致しておりますので

気兼ねなくお電話下さい

Tel 096-286-2258

スタッフ到着後ご自宅にお連れしご安置します。

死去

※病院以外での死去の場合
掛かり付けの医師に連絡。
突然お亡くなりになった場合は警察に連絡。

葬儀社へ連絡

■お名前

■お伺いする場所

■お伺いする時刻

■ご安置する場所

■非常時の連絡先

■備考

葬儀社が到着

寝台車で移動

安置

※基本的にご自宅にご安置。
敷布団のみ必要。
(ご自宅にご安置出来ない場合はご相談下さい。)

②. 安置

ご遺体は、基本的にご自宅の仏間にご安置することになります。

ご安置の後、喪主を決めます。配偶者・長男が喪主になることが多いです。

喪主には本来葬儀を執り行う役割がありますが、様々な事情により喪主でない人が葬儀を実際取り仕切る役目を担う場合もあります。葬儀社や寺との窓口が多いと伝達される内容が間違って伝えられることが多くなります。どのような事情をお持ちの場合でも、一人窓口役を決めておくとい良いでしょう。

また、喪主には仏壇・お骨・年忌法要など、葬儀後にも役割があることを念頭に置きましょう。

臨終に間に合わなかった近親者に、死去した旨連絡をします。

所属寺に連絡し、枕経（臨終勤行）をおつとめいただきます。枕経は、深夜の場合翌朝におつとめになる場合があります。

ロウソク・線香・香炉等枕飾り一式は、葬儀社よりご用意致します。

所属寺との話し合いにより、通夜・葬儀の日時が決まります。

③. 打ち合わせ

弊社担当スタッフと打ち合わせをします。

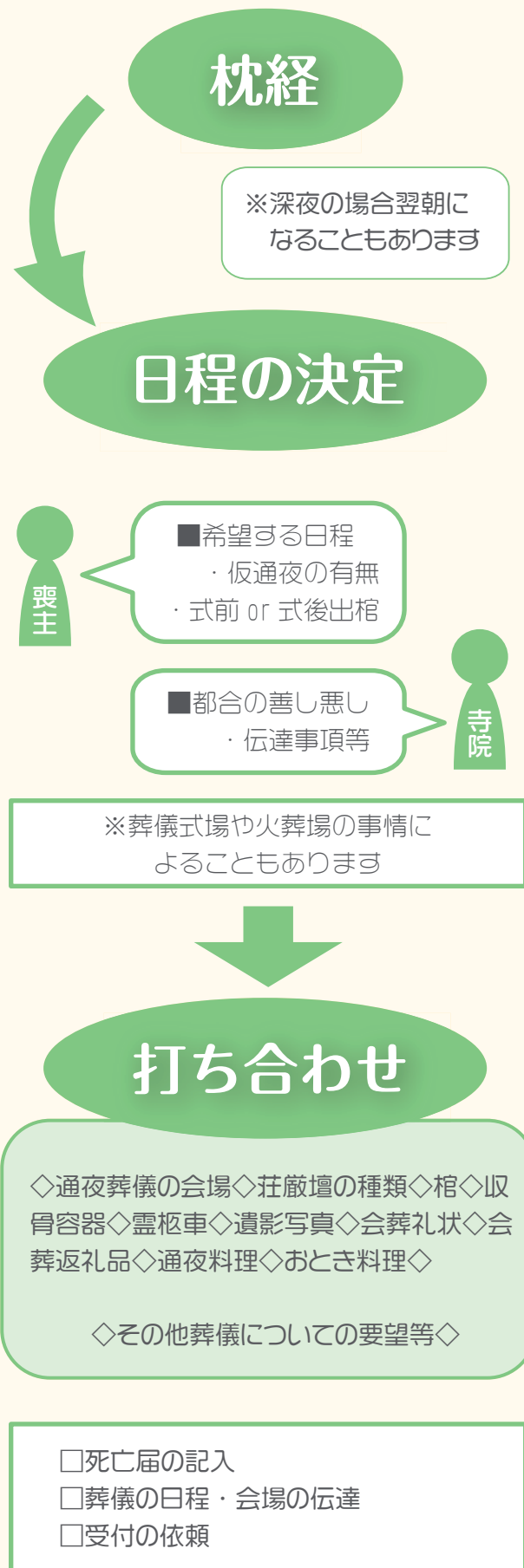
通夜・葬儀の会場、荘厳壇の種類、棺や収骨容器・霊柩車等についてどれを使用するかを決めます。遺影の元写真を選び、どのように加工するかを決めます。

会葬礼状の内容や、会葬返礼品の数を決めます。通夜振る舞いの料理・おとき料理の種類と数を決めます。

その他葬儀についての要望を、葬儀社に伝えます。死亡届の記入をします。

葬儀の日程・会場について、決まり次第親族や知人に伝えます。

受付を依頼します。



連絡先

所属寺

寺院名

電話番号

宗派

連絡先

[illegible]

覚え書き①

喪主をつとめる人

喪主と本人との間柄

日程の希望

☐出来るだけ早く

☐出来るだけゆっくり過ごす

葬儀の規模

☐豪華に

☐人並みに

☐質素に

予想される会葬者の人数

↓内訳

人くらい

誰の	どんな関係の人が	何人くらい
本人	家族	人
本人	親族	人
		人
		人
		人
		人
		人
		人
		人
		人
		人

式場

☐ 益城会館 ☐ 東館 ☐ 家族館 ☐ 自宅 ☐ 寺 ☐ ()

遺影など写真のある場所

展示するもの

好きな花

流したい音楽

納棺時の服装

法名・法号・戒名(既にある場合)

ex. 遺影にする元写真の選び方

・ピントの合っているもの

写真は大きく引き伸ばされます。ピントが合っていない写真はボケてしまいます。

・本人が大きく写っているもの

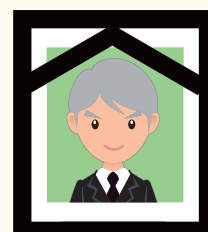
引き延ばす倍率が低い方が、綺麗に仕上がります。

・顔の一部が切り取られていないもの

復元することも出来ますが、本来の印象とは変わる恐れがあります。

・その人らしい写真であること

これが一番に優先されるべきことだと思います。遺影は永く飾られることになります。飾りたい、飾られたい写真であることが重要です。



覚え書き②

葬儀の費用について

☐ 預貯金を使う

☐ 保険に入っている

☐ 家族に任せる

☐ ()

☐ 出来るだけ香典でまかなう

預金等

証券等

保険等

クレジットカード・ローン等

不動産等

退会が必要な会等

他所有しているもの

※ 情報の管理には十分注意して下さい!

④. 納棺と移動

ご遺体を棺に納めます。専門の納棺師や、弊社のスタッフが手伝います。白い着物の用意があります。

納棺師の手配により、愛用の着物やスーツ等への着替やドライシャンプー、棺内の飾り付けが可能です。

通夜の読経（通夜勤行・つやごんぎょう）の前に、会場に移動します。お棺が安置されている場所へのお迎えがあります。

家族は読経の1時間半前には会場に入り、供花の並べ替えなど準備をします。

読経の1時間前には受付を始めます。

家族・親族は、読経の30分前には着席しておきます。

⑤. 通夜

読経の途中か、読経の前後に焼香の時間が設けられます。

読経の後、喪主又は遺族代表がご弔問の方々に挨拶をすることが多いです。

通夜振る舞いに入ります。お残りいただいた方に食事・飲み物を勧めます。

通夜振る舞いに加わらずお帰りになる方が多数の場合、通夜振る舞い前に遺族が一旦お見送りに並ぶこともあります。

おときの数量の確認と、お寺参りの人数の確認をして、スタッフに伝えます。

納棺

※スタッフが着替えを手伝う。
納棺師の清拭・着替・化粧・湯灌等も可能。

移動

通夜開始2時間前

通夜会場へ移動。
供花の並べ替え等。

受付開始

通夜開始1時間前

遺族親族着席

通夜開始30分前

通夜勤行

読経中、
又は読経前後の焼香。
☐遺族代表挨拶
☐見送りの有無

通夜振る舞い

☐おとき数量確認
☐お寺参り人数確認

ex. 通夜って何？

釈尊（お釈迦さま）が入滅した（亡くなった）際に、弟子達が生前説かれた教えについて夜を通して語り明かしたのが通夜の始まりだと言われています。

「香を絶やさないように」と言われることがありますが、「人が集まるので夜が明けるまで香が絶えなかった」というのが本筋のようです。亡き人の想いを直接聞くことは出来ませんが、親しい人の死からこの時間まで何かと慌ただしく過ごした家族の体調よりも優先させて香を焚くようにとの声は、少ないのではないのでしょうか。翌日の葬儀やその翌日のお寺参り、各所への手続きなど、何かと気忙しい日が続くことになります。くれぐれも体調を崩さないように気を付けましょう。

さて、現代では葬儀の夜バージョンのように認識されがちな『通夜』で、仕事の都合で昼間行われる葬儀に会葬出来ず、通夜に訪れる方が葬儀に訪れる方より多い場合が増えてきましたが、本来は近親者で故人を偲び、故人を思い起こし、故人について語らう時間でした。

通夜のことを、夜伽（よとぎ）ともいいます。伽とは、話し相手やお世話をし、添い寝をすることです。

通夜を旧来の姿に戻すのは少し難しそうですが、遺体保全技術のある現代においては、必ずしも亡くなったその日に通夜を行う必要はありません。例えば一晩自宅で仮通夜を親族だけで過ごし、お参りの方が多い、おつとめのある通夜（本通夜）は斎場に移動して執り行うなど、ゆっくりと語り合うための、色々な手段があります。何が良い方法か、充分に話し合ってみましょう。

火葬場に向かう人数

必要なお斎の数

お寺参りの人数

お寺参りの後の食事

⑥. 火葬と葬儀について

骨葬が多いのが、熊本の特徴です。

骨葬とは、火葬を終えた後で葬儀を行うことです。熊本以外にも、東北地方や信州・山陰等各地に骨葬の風習は見られます。

熊本に骨葬が多い理由としては、元々葬儀が終わって行くべき場所がお墓であったのを踏襲しているという説や、火葬場の受付が午後3時までであることから葬儀を午後に行いたいという希望を叶えるためには必然的に火葬が午前中になることなどが挙げられます。

骨葬の無い地域から葬儀に会葬なさる方にはお顔を見たいと仰る方もあるかもしれませんし、本人やご家族に、何かしらのご希望があるかもしれません。

大まかなタイムスケジュールについては下の表を、実際に多い例については次のページをご覧ください。

式前出棺か式後出棺か

棺に入れる花

棺に入れる物

◇式前出棺の場合

集合	午前 8:00	午前 9:00	午前 10:00
出棺	午前 8:30	午前 9:30	午前 10:30
火葬	午前 9:00	午前 10:00	午前 11:00
収骨	午前 10:30	午前 11:30	午後 0:30
会館着 お斎会食	午前 11:00	正午	午後 1:00
写真撮影 受付開始	正午	午後 1:00	午後 2:00
葬儀開式	午後 1:00	午後 2:00	午後 3:00
葬儀閉式	午後 1:40	午後 2:40	午後 3:40

◇式後出棺の場合

お斎会食	午前 8:00	午前 9:00	午前 10:00	午前 11:00
写真撮影 受付開始	午前 9:00	午前 10:00	午前 11:00	正午
葬儀開式	午前 10:00	午前 11:00	正午	午後 1:00
出棺	午前 11:00	正午	午後 1:00	午後 2:00
火葬	午前 11:30	午後 0:30	午後 1:30	午後 2:30
収骨	午後 1:00	午後 2:00	午後 3:00	午後 4:00
会館着 解散	午後 1:30	午後 2:30	午後 3:30	午後 4:30

⑥－A. 火葬→葬儀の場合

火葬場の受付は9時からです。

集合して出棺、火葬、収骨を済ませて会館へ戻るまで、約3時間かかります。

◇午後2時葬儀の例

午前9時。会館に集合。お花などを棺に収めます。

午前9時30分。会館を出棺し、火葬場へ向かいます。

午前10時。火葬が始まります。

午前11時30分。収骨が始まります。

正午。会館に到着。お斎(おとき)に座ります。お斎は精進料理のお膳です。

午後1時。家族の写真撮影を行います。受付も開式1時間前から行います。

午後1時30分。家族と親族は着座して開式を待ちます。

午後2時。葬儀開式です。

定刻に導師入場、読経があります。

読経の途中(または後)で焼香があります。

導師退場、弔電代読の後、喪主又は遺族代表が会葬者に挨拶をします。

挨拶の後、玄関前でお見送りをすることがあります。

供花は親族分を除き外に運び出します。お花は会葬にお見えになった方々にお抜きいただき、花束にしてお持ち帰りいただきます。

葬儀開式から閉式までにかかる時間は40分程です(宗派・寺院によって異なります)。

集合

開式5時間前
午前9:00

出棺

開式4時間30分前
午前9:30

火葬

開式4時間前
午前10:00

収骨

開式2時間30分前
午前11:30

会館着
お斎会食

開式2時間前
正午

写真撮影
受付開始

開式1時間前
午後1:00

遺族親族着席

開式30分前
午後1:30

葬儀開式

開式時刻
午後2:00

葬儀閉式

開式40分後
午後2:40

⑥－B. 葬儀→火葬の場合

火葬場の受付は午後3時までです。

移動にかかる時間などを考えると、葬儀は午後1時までには開式する必要があります。

◇午前11時葬儀の例

午前9時。お斎（おとき）会食。会館に宿泊した方や、早めにいらした方の食事です。開式1時間前には食べ終わり、着替えなど準備を済ませておきます。葬儀開式前に荷物をまとめておきます。火葬場でお斎も可能です。

午前10時。家族の写真撮影を行います。受付も開式1時間前から行います。

午前10時30分。家族と親族は着座して開式を待ちます。

午前11時。葬儀開式です。

定刻に導師入場、読経があります。

読経の途中（または後）で焼香があります。

導師退場の後、喪主か代理が会葬者に挨拶をします。

葬儀閉式後、お花などを棺に収めます。

正午。出棺します。

供花は親族分を除き外に運び出します。お花は会葬にお見えになった方々にお抜きいただき、花束にしてお持ち帰りいただきます。

午後0時30分。火葬が始まります。

火葬場にてお斎など食事がある場合、待合室で会食をします。

午後2時。収骨が始まります。収骨が済み次第、その場で、もしくは一度会館に戻って解散となります。

会館集合
お斎会食

開式2時間前
午前9：00

写真撮影
受付開始

開式1時間前
午前10：00

遺族親族着席

開式30分前
午前10：30

葬儀開式

開式時刻
午前11：00

葬儀閉式

開式40分後
午前11：40

出棺

開式1時間後
正午

火葬

開式1時間30分後
午後0：30

収骨

開式3時間後
午後2：00

会館着・解散

開式3時間30分後
午後2：30

⑦. お寺参りとその後の法要

◇遺骨の安置

葬儀・火葬終了後、その日に納骨を行わない場合、ご遺骨をご自宅に安置します。スタッフが中陰壇（お骨を安置する段）を設営します。

◇お寺参り

葬儀の翌日にはお寺参りがあります（当日に行われる場合もあります）。遺族と身近な親族でお寺にうかがい、お寺のご本尊に報告します。

お寺からは前もって時刻の指定があります。お参りする人数は、葬儀前までにあらかじめ伝えておきます。

お参りの際に、おつとめと、その後どのように法要を営むかの相談があります。

お寺参り終了後、精進上げと称して会食を行う場合が多いようです。

◇中陰

東京などでは火葬場が少なく初七日を過ぎてから葬儀を行う場合が多いので、葬儀、火葬が済むと引き続き初七日の法要が行われる場合が多いようですが、熊本、特に益城近辺では、初七日は本来の初七日の日におつとめをなさるというお寺が多いようです。お集まりにな

れる方で、ご自宅のご仏壇前やお寺で営みます。

中陰法要が7日ごとである由縁は、釈尊（お釈迦様）が悟りを開いてから7日ごとに場所を変えて思索に耽ったからといわれます。

また、六道輪廻の思想では、死後49日目に次の生まれる先が決まるという説もありますし、7日ごとに裁判が開かれて、その結果で死後の行き先が決まるとする宗派もあります。四七日と五七日の間には初月忌を迎えます。例えば11月24日に亡くなった方の初月忌は、翌月12月24日です。

◇納骨

お骨をお墓や納骨堂に納めます。

四十九日を契機として納骨なさる方が多いように思われますが、執着するのはよろしくないということで、早めの納骨をお勧めになるお寺もあります。

（仏法でなく世間の）法的には、いつまでに納骨をしなければならないということはありません。

また、基本的には、お骨を墓地以外の場所に埋葬することは許されていません。



◇満中陰法要

七七日(四十九日)をもって満中陰となります。満中陰の法要は、親族一同が集まって行い、ご仏壇やお寺でのおつとめの後、会食をすることが多いようです。

法要終了後は、遺影のリボンを外し、ご仏壇の真上を避けて飾ります。

中陰壇を片付けます。処分していただいても構いませんが、面倒な場合は電話をいただけるとスタッフが回収に参ります。ご遠慮なくお申し付け下さい。

◇年忌法要

亡くなった日と同じ月・同じ日を祥月命日(しょうつきめいにち)といいます。例えば11月24日に亡くなった方の祥月命日は毎年の11月24日です。

亡くなった翌年の祥月命日が一周忌です。三回忌は、亡くなったその日を一回と数えるため2年後となります。その後も同様です。

法要も本来は当日に行うのですが、平日に集まるのが難しいため、現在では前倒して土曜日曜に行われることが多いようです。

しかしながら、誕生会を先に開いたからといって、本来の誕生日に何もしないという方は少ないと思われます。法要を前倒して行う場合

についても、実際の命日も大事にしましょう。下の表にあるものは主立った年忌です。十王信仰や十三仏信仰、神道・道教・儒教などの影響を受け、複雑に入り交じってこのようになっているのですが、いずれも必ず行わねばならないものではありませんし、反対にそれだけを行えば良いというものではありません。毎年法要を営んでも構わないのです。

生活習慣の近代化によって宗教意識は薄れてきており、生活様式の多様化により、各家庭によって法要をどのように執り行うかも変わりつつある中、毎年法要を営むわけにもいかないかもしれません。しかし各宗派を通じて、法要とは生きている私達が、故人とのご縁と、そこに集う皆との繋がりを感じることでできる数少ない場所です。なるべく機会を設けるようにしましょう。

葬儀はお別れの儀式だととらえられがちですが、胸の中に残り行く姿もあれば、新たに感じられる想いや、新たな考え方への出会いもあるでしょう。

葬儀や法要の役割の中には、そういうものもあるのかもしれません。

お寺や宗派で違いがあります

100 日目	1 年後	2 年後	6 年後	12 年後	16 年後	22 年後	24 年後	26 年後	32 年後	49 年後
百 ヶ に 日	一 周 忌	三 回 忌	七 回 忌	十 三 回 忌	十 七 回 忌	二 十 三 回 忌	二 十 五 回 忌	二 十 七 回 忌	三 十 三 回 忌	五 十 回 忌

考えを整理する

お葬式についての考えは、人それぞれです。
意識が共有されていれば問題ありませんが、
それぞれに思い入れが強い場合、どちらが悪
いわけでもないのに意見がまとまらないこと
もあります。
無用な衝突を回避するには、それぞれの意見
を相対化してみるのが効果的な場合があります。

また、自分の中でも考えがまとまらないこと
があります。この場合も、両方の考えと、何
を基（もと）としてその考えが成り立っている
のかを観察してみるのが有効です。

いざというときに、自分の思いや誰かの考え
に振り回されず、できるだけ心が穏やかにあ
れるように。どうしても穏やかでいられない
心とも、どうにか付き合っていけるように。
考えを整理してみましょう。

基になる考え	違う考え
誰の考え	誰の考え
なぜそう考えるのか	なぜそう考えるのか
アドバイスをもらう人	

基になる考え	違う考え
誰の考え	誰の考え
なぜそう考えるのか	なぜそう考えるのか
アドバイスをもらう人	

基になる考え	違う考え
誰の考え	誰の考え
なぜそう考えるのか	なぜそう考えるのか
アドバイスをもらう人	

メモ

最後の日を 共に過ごす場所
斎場 益城会館



斎場 益城会館（本館）
通常 50 ～ 120 席程度 最大 250 名対応
様々なご要望にお応えできる式場です



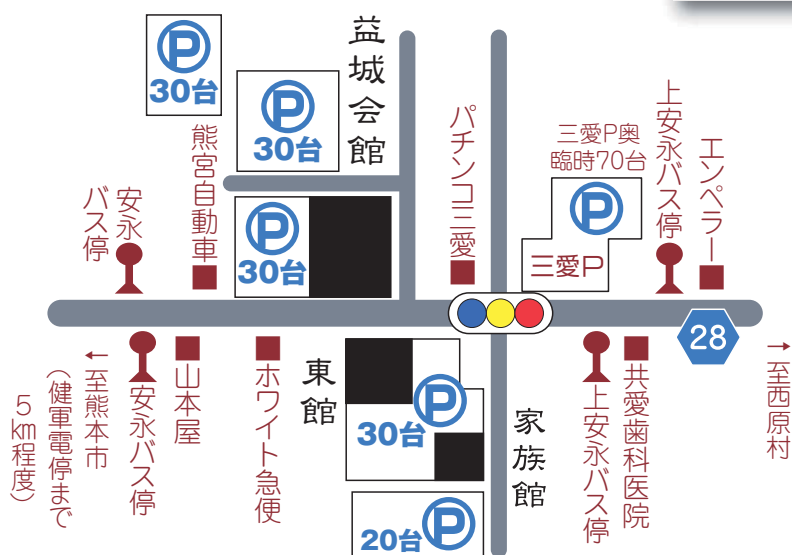
小斎場 東館
通常 20 ～ 50 席 別途モニター席 20 名対応
我が家のようにお使いいただけます

自宅のような 小斎場
小斎場 東館

少人数でお過ごしになる方に
小斎場 家族館



小斎場 家族館
15 名まで対応
ご家族だけでお過ごしになる方に最適です



(有)葬祭公社

〒861-2231

熊本県上益城郡益城町安永 6 5 2

どうぞお気軽にご相談下さい

☎ 096-286-2258

<http://mashiki.net>